

多機能化する「道の駅」

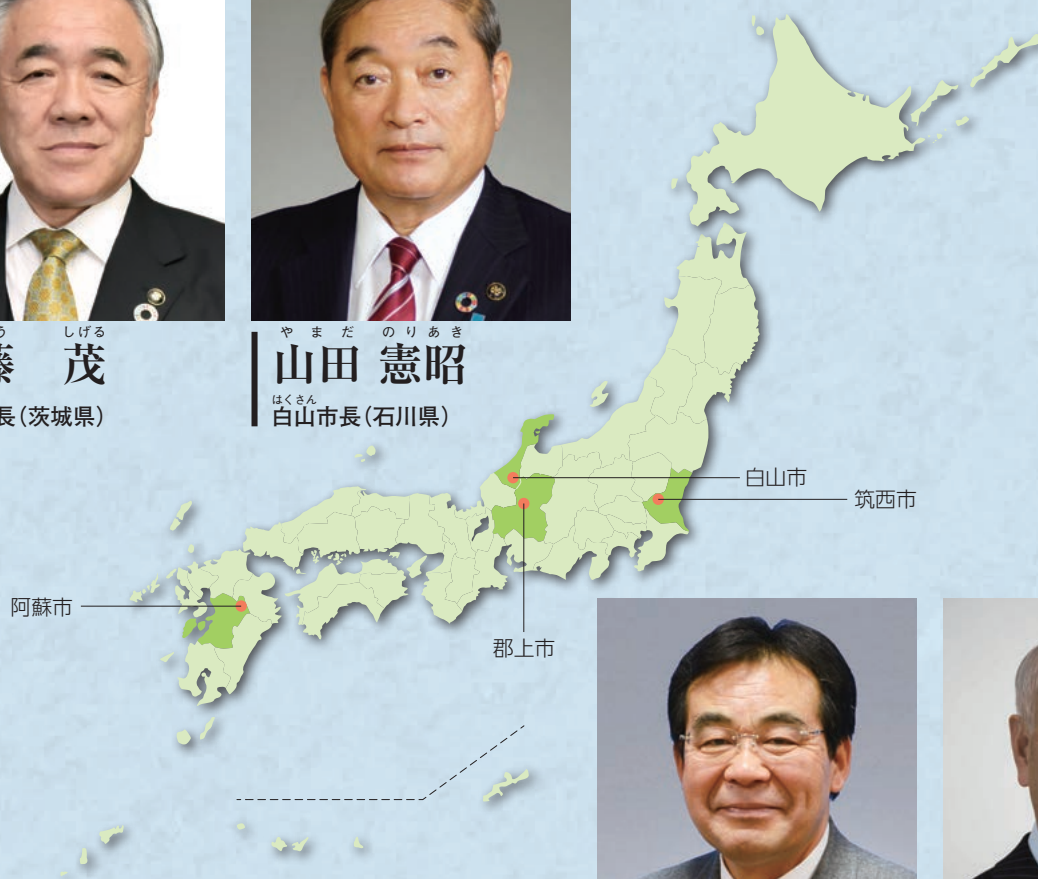
～誕生から30年を迎えて～



すとう しげる
須藤 茂
ちくせい
筑西市長(茨城県)



やまだ のりあき
山田 憲昭
はくさん
白山市長(石川県)



司会・コーディネーター

かわい たかよし
河井 孝仁

東海大学文化社会学部広報メディア学科教授



さとう よしおき
佐藤 義興
あそ
阿蘇市長(熊本県)



ひ おき としあき
日置 敏明
ぐじょう
郡上市長(岐阜県)

平成3年に山口県・岐阜県・栃木県で実験的に始まってから今年で30年を迎える「道の駅」。「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」「地域の振興や安全の確保に寄与」することなどを目的に各地で設置が進められ、本年6月現在の登録数は1193駅に及びます。道の駅の主要機能である「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」に加えて、近年は地域の防災拠点として、新たに「防災機能」を高める動きが広がるなど、道の駅の多機能化も進んでいます。

座談会では「道の駅」を地域活性化や防災拠点に活用する山田・白山市長、須藤・筑西市長、日置・郡上市長、佐藤・阿蘇市長にお集まりいただき、それぞれの道の駅の特徴や管理運営体制、防災拠点としての活用法、今後の展望などについて幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

道の駅は地域振興の要の施設

河井 もともと道路利用者の休憩施設としての色彩が強かった道の駅ですが、近年は地域振興や防災拠点としての機能も重視されるようになりました。それでは、各都市の道の駅の特徴や取り組み内容をご紹介します。

山田 白山市では平成30年4月、県内有数の交

地場産業の振興と 交流人口の拡大を目的に 市と国土交通省が一体となって 道の駅「めぐみ白山」を 整備しました。



山田 憲昭
白山市長(石川県)

通量がある国道8号沿いに、県内では26番目、市内では4番目となる道の駅「めぐみ白山」を開設しました。地場産業の振興と交流人口の拡大を目的に、市と国土交通省が一体となって整備を進めた重点道の駅です。

建設準備段階から、独自加工商品の開発を支援する「白山市6次産業化チャレンジ支援事業」を進めてきたこともあり、地場産品売り場では、地元の農産物に加えて、加工食品の販売にも注力してきました。同事業で開発され、これまでに道の駅で販売した商品は15種類に及びます。また、地元の農業高校と連携し、市の「農林水産物ブランド」を用いた商品開発にも取り組みました。併せて、旬ごとの野菜を使った総菜などを販売するレストランでも、生産者支援の一環として、通常、規格外品として廃棄されるはずの食材をあえて活用したメニューを考案し、提供してきました。

さらに、訪れた人に地域の魅力をお伝えするゲートウェイ型の道の駅として、情報発信にも力を入れています。「観光情報コーナー」では市内に3カ所ある鉄道車両基地を紹介したり、大型パノラマスクリーンを用いて市の魅力や観光情報をPRするなどしています。

須藤 筑西市では、令和元年7月、市内の中央を東西に走る国道50号の沿線に、道の駅「グランテラス筑西」を開業しました。国道50号は群馬県前橋市から茨城県水戸市へ至る幹線道路ですが、「グランテラス筑西」は茨城県内の同

沿線に初めて開設された待望の道の駅。おかげさまで、今年の5月30日には来場者200万人を達成することができました。

北関東最大級の広大な敷地を生かして、その中央部分にはイベント会場としても利用できる直径60mの芝生広場を設置。この広場を取り囲むように配置した多様な建物群を渡り廊下でつなぐ「分棟方式」を採用しています。これにより、敷地内全体ににぎわいが生まれると同時に、長時間滞在しやすい構造になっています。

農産物・物産直売所では、イチゴやこだますいか、梨など、市の特産品はもちろん、茨城県の西の玄関口として、近隣自治体の新鮮野菜や物産品も取りそろえて販売しています。また、開業後に道の駅の隣に開設された、イチゴを栽培する観光農園「ストロベリーランド筑西」と提携することで、「イチゴ狩りができる道の駅」として、新たな魅力が生み出されています。

日置 郡上市は平成16年3月に郡上郡7カ町村が合併して誕生しました。合併前から旧町村



道の駅「めぐみ白山」の商品をSDGsと関連付けて紹介するポップを作成した学生たち(白山市)

屋外ステージを設けた 直径60mの芝生広場を会場に さまざまなイベントが開催され 集客効果を高めています。



須藤 茂
筑西市長(茨城県)

位で設置されていた道の駅が多く、現在は市内の幹線道路の近辺に八つの道の駅が営業しています。それぞれ単体の施設としても人気がありますが、周辺施設とも連携しながら、さらに魅力を高めています。

代表的なのは道の駅「古今伝授の里やまと」です。温泉施設「やまと温泉やすらぎ館」が隣接していることから、天然温泉を楽しむことができます。

る道の駅として人気です。さらに、昨年の10月には、レストランや大浴場などの機能をあえて設けない、宿泊特化型のホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜郡上」が近隣にオープンしました。結果的に、道の駅、温泉施設、ホテルのそれぞれが互いの機能をうまく生かしながら、地域振興が図られるようになりました。

道の駅「白山文化の里長滝」も同様です。この道の駅に併設された「清流長良川の鮎」(世界農業遺産)を情報発信する岐阜県の施設「清流長良川あゆパーク」の指定管理者を郡上市が担うことで、一体的な管理運営が実現し、お客さまへの充実したサービスを提供することができています。

佐藤 阿蘇市内には二つの道の駅があります。道の駅「波野 神楽苑」と道の駅「阿蘇」です。道の駅「波野 神楽苑」は食事処や特産品コーナーのほかに、神楽について学べる資料館「神楽館」が設置されています。市内の中江・横堀地区で継承されてきた岩戸神楽を中心に、全国の有名な神楽の面・衣装などを展示する、いわば神楽のインフォメーションセンターです。

一方、道の駅「阿蘇」は、特産品の展示販売、観光案内と情報発信にとどまらず、地域資源と連動したまちづくりなども一体的に行う重点道の駅です。季節の野菜や果物をはじめ、阿蘇の特産品を豊富に取りそろえていることに加え、地元の高校生と地元の産品を活用した商品開発なども推進しています。

中でも情報発信拠点としての機能が充実しており、総合案内所では観光情報をはじめとした各種情報を専門スタッフが日本語、英語、フランス語、中国語で案内するとともに、ホーム



道の駅の芝生広場を会場に、ラグビーワールドカップのパブリックビューイングを実施(筑西市)

ページでも多言語で情報発信し、内外から高い評価を受けています。うれしいことに、開業から10年を経た平成30年に来場者1000万人を達成することができました。

立地条件に合わせた経営戦略

河井 お話をお聞きしていると、一言で「道の駅」といっても、さまざまな個性、特徴があることが分かりました。設置エリアなどによっても、道の駅の性格が変わってくるように思いますが、いかがでしょうか。

佐藤 阿蘇駅前に整備された道の駅「阿蘇」は、周囲に温泉施設や公園、医療・行政施設、民間の商業施設などが集積しています。同時に、こ



道の駅、温泉施設、ホテルの
それぞれが互いの機能を
うまく生かしながら
地域振興が図られるように
なりました。

日置 敏明
郡上市長(岐阜県)

の一带は観光資源としての価値向上を目的に、熊本県と共同で「無電柱化」の工事を行いました。こうした周辺施設との相乗効果も生み出され、道の駅の魅力も高まりました。来場者が1000万人を超えたのも、こうした背景があるからだと思っています。

山田 道の駅「めぐみ白山」は、金沢市と小松市の中間地点に当たる市街地近郊型の道の駅です。先ほどゲートウェイと称した通り、まさに

白山市の玄関口として、この道の駅を経由して、市内の魅力的な観光地を巡っていただきたいと考えています。そのためにも、この道の駅では霊峰白山、県内最大の流域を誇る手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた白山市の魅力や、市内の観光スポットの案内などに特に力を入れているところです。

須藤 道の駅「グランテラス筑西」は複合型の道の駅として、さまざまな機能を持っています。中でも一番の目玉施設は、屋外ステージを備えた芝生広場です。ここを会場に、ダンスやチャリデーイングなどのパフォーマンス、歌謡ショーなどの各種イベントが頻繁に開催されています。一昨年に国内で開催されたラグビーワールドカップ2019の時には、地元の青年会議所によるパブリックビューイングが行われました。こうしたイベントを目当てに、多くの人がこの道の駅に來場しています。立地条件もさることながら、施設や設備の特徴を十分に生かし、さまざまな目的に活用いただくことで、集客効果をより高めています。

日置 市内の中山間地に立地する道の駅では、観光客や道路利用者への各種サービスに加えて、住民の生活基盤を支援する役割も担っています。例えば、道の駅「明宝」では福祉や生活支援サービスを提供しており、日ごろから多くの高齢の住民が集います。また、周辺に買い物拠点が少ないため、道の駅内の「物産館」では住民向けに一定の日常生活用品も取りそろえています。さらに、将来を見据えて、高齢者の生活の足の確保を目的に、この道の駅を拠点とした自動運転サービスの実証実験も行いました。

求められる管理運営体制

河井 道の駅が効果的な事業活動を行う上で、管理運営体制の在り方も重要な要素だと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

山田 白山市では「めぐみ白山」を開設する際に、どのような管理運営体制を構築するかが大きな課題となりました。当初は、指定管理者を一般公募する予定でしたが、「地域の団体内で利害が相反すると、運営はうまくいかない」との助言を得て、方針を転換。白山市は平成17年の1市2町5村による合併を経て、商工会議所、三つの商工会の経済団体や観光団体、二つの農協が市内で活動していますが、そうした関



道の駅「古今伝授の里やまと」(左手前)に隣接する、「やまと温泉やすらぎ館」(右手前)、宿泊特化型のホテル「フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜郡上」(左奥)(郡上市)

道の駅「阿蘇」では 熊本地震の発生直後から 販売商品の提供や 道路情報の伝達など 復旧支援を担いました。



佐藤 義興
阿蘇市長(熊本県)

係団体の参画の下、オール白山体制で新しい道の駅の事業に臨むことになりました。結果として「自分たちの道の駅」という意識が関係者間のみならず、市民の間でも共有されるようになりました。

須藤 道の駅「グランテラス筑西」は、市と商工会議所、商工会、農協、そして金融機関が出資する第三セクター「株式会社ちくせい夢開発」を指定管理者として管理運営を行っています。商品流通のノウハウを生かして、道の駅の管理運

営だけでなく「ちくせい若者支援便」事業などにも携わっており、将来的には、道の駅発着ツアーの造成やオンラインショップなど、多様な形態で観光振興・物産振興などに貢献したいと意欲を見せてくれています。

佐藤 道の駅「阿蘇」を運営しているのは開業以前から、阿蘇市を一つの博物館として位置付け、文化、自然など豊かな地域資源を生かしながら、地域振興を図ってきたNPO法人「ASO田園空間博物館」です。施設の管理運営にとどまらず、より広い視野で自らがまちづくりや観光振興、情報発信に携わることで、市全体の活性化に大いに貢献してくれています。阿蘇市としても、非常に頼もしい存在です。

日置 郡上市では旧町村時代から、道の駅を開設する際には、それぞれ第三セクターを立ち上げ、運営の管理委託を行ってきた歴史があります。道の駅「古今伝授の里やまと」もその一つですが、この指定管理者は「古今伝授の里フィールドミュージアム」のレストラン「もちどり」や「やまと温泉やすらぎ館」など、周辺施設の管理も担っている「郡上大和総合開発株式会社」です。企画運営の能力の高さに加えて、さまざまな関連事業に一体的に携わることで、地域経済の活性化や雇用にも大いに貢献してくれています。

防災機能の向上に向けて

河井 近年、道の駅の新たな機能として注目されているのが、防災機能です。地域の防災拠点として、どのような取り組みを進めていますか。

須藤 道の駅「グランテラス筑西」は昭和61年、



道の駅「阿蘇」内の「総合案内所」では、スタッフが外国人観光客に多言語で情報を提供(阿蘇市)

台風10号を原因とする水害が発生し、大きな被害をもたらした小貝川に近いエリアに立地しています。そこで、防災対策の一環として、周囲の国道よりも60cmほどかさ上げしてから道の駅を建設しました。また、敷地内の駐車場は360台もの車両を収容できる大規模なものです。こうした特性を生かして、今年の2月には、市、道の駅、常陸河川国道事務所との間で協定を結び、災害が発生した際には、後方支援活動の拠点として活用されることが決まりました。

山田 防災対策は市政の中でも大きな柱です。道の駅「めぐみ白山」でも、災害時の拠点として対応できるよう、自家発電機や衛星電話、マンホール型トイレ、防災かまどベンチなど、さ

さまざまな防災設備を整備しました。また、災害発生時には道路利用者や周辺住民の避難所として活用されることを前提に、水や非常食などの備蓄も行っています。

日置 道の駅「古今伝授の里やまと」でも、防災備蓄倉庫や電力確保のための太陽光発電装置を設けるなど、防災への備えに力を入れていきます。また、一昨年9月に集中豪雨が発生した際には、大規模な停電の発生により長期間にわたって自宅のお風呂に入れない住民がいたことから、道の駅に隣接した「やまと温泉やすらぎ館」で温泉の無料開放を実施するなど、被災者支援の取り組みも行いました。

佐藤 災害はいつでも発生するかわかりませんが、自動車で移動しているときに、見知らぬ土地で被災する可能性もあります。そうした中で大きな役割を果たすのが道の駅です。

実際、阿蘇市は平成28年熊本地震によって多大な被害を受けましたが、道の駅「阿蘇」では、地震直後から車中泊の被災者の受け入れや、物資が不足した避難所への商品提供などの支援活動を行いました。また、他県からの消防救助班の結集拠点として大きな役割を果たしました。



河井 孝仁
東海大学文化社会学部広報メディア学科教授

さらに、阿蘇周辺の道路情報を独自に住民やドライバーから聞き取り、観光マップに落とし込んで、住民や復旧支援に向かうドライバーに提供する活動も行いました。

持続可能な道の駅へ

河井 最後に今後の展望をお聞かせください。

佐藤 市内にある二つの道の駅は住民自身も出資した団体が管理運営を行っています。持続可能な道の駅の在り方を考えると、今後行政があまり中に入らずに、自主的な運営を続けていくことが肝要だと思います。コロナ後は、インバウンドを含めて、また多くの観光客でにぎわうでしょう。これまで以上に充実したおもてなしができるよう、取り組んでもらいたいですね。

日置 郡上市には1990年代に開業した道の駅が多く、一部の施設では老朽化問題が発生しているため、施設の改修なども進めていかなければいけません。また、道の駅に物産品を納入する生産者の高齢化も進んでいますから、ご当地商品の充実に向けて、農業振興にも努めていきたいと思っています。

須藤 筑西市でも農業生産者の高齢化が進んでおり、農産物の納入が生産者にとって大きな負担になっています。道の駅の持続可能性を考えると大きな課題です。今後は道の方から生産者のもとに集荷に訪れるなどの対策も考えていきたいですね。また、最近新たな試みとして、畑で採れた農産物をロボットに載せ、道の駅に届ける実証実験なども進めています。

山田 SDGs 未来都市の認定を受けた白山市では、金沢星稜大学との包括連携協定の一環と

して、学生の皆さんに道の駅の付加価値向上に向けた活動に協力してもらっています。これまでに、学生の皆さんは道の駅「めぐみ白山」をフィールドに、ポップの作成を通じて地元産の商品をSDGsと関連付けて紹介したり、来場者を対象にSDGsの認知度調査を実施するなど、各種取り組みを進めてきました。これからも学生の皆さんをはじめ、多様な意見を取り入れて、持続可能で、魅力ある道の駅の実現に、努めていきたいですね。

河井 各市長のお話をお聞きして、私自身も大変勉強になりました。設置するエリアの特性も見ながら、どのようなコンセプトを軸に、道の駅を開設するのか。さらに、地域活性化



の実現に向けて、いかに企画運営能力の高い指定管理者に事業を委託するのか。非常に大きな問題であることがよく分かりました。

今後さまざまな地域の主体と手を組みながら、より魅力的な道の駅の形成に向けてご努力いただきます。本日はどうもありがとうございました。

(令和3年7月13日、WEB会議形式にて開催)
本コーナーは隔月掲載となります。次回は11月号に掲載予定です。